

「定住外国人の子どもの就学支援事業」
シンポジウム

日時: 2011年11月16日 (13:00 ~ 17:00)

「虹の架け橋教室」からの活動報告:
茨城県「常総教室」・「下妻教室」

報告者:

特定非営利活動法人

国際社会貢献センター - (ABIC) 森 和重

2. ABICの概要及び活動状況:

2000年4月 総合商社などを会員とする(財)日本
貿易会の下部組織として設立

2001年5月 NPO法人として認証受ける

目的:

- 国際ビジネス経験・Know-Howを持つ商社・
メ - カ - ・金融等の人材を活用
- 国内外の様々な分野で人的支援などによる民
間レベルでの協力・交流を通じて国際的な社会
貢献を行う

主な事業活動：

政府機関関連への協力、
NGO/NPO等への協力、
プロジェクトの受託業務
地方自治体への協力・中小企業支援、
外国企業の対日ビジネス支援等、
教育支援、 在日留学生支援・交流、
国際イベント等への協力

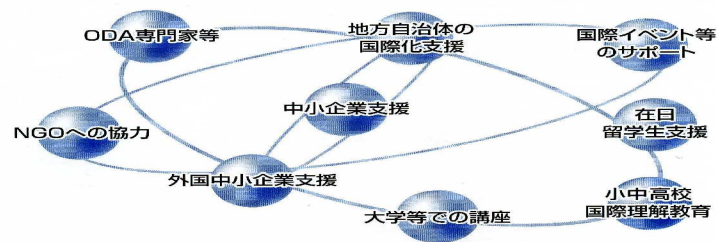
正会員：法人17社、個人7名、

賛助会員：法人3社、個人408名

活動会員：2,108名（2011年3月末現在）

・ホ - ム - ペ - ジ： <http://www.abic.or.jp/index.html>

ABICの活動と活動会員



ABICの活動

国際社会貢献センター（ABIC）は、商社等を会員とする社団法人 日本貿易会が設立した NPO 法人。商社 OB 等を中心とした海外経験豊富な人材約 1,200 名を登録し、国内外の様々な分野でのニーズに対する協力や人材の紹介・派遣等の活動を行っている。

- ① 政府の ODA 関係での専門家・シニア海外ボランティアへの人材推薦
- ② 海外で活動する NGO 等に対する人材推薦
- ③ 中小企業の国際ビジネス支援
- ④ 外国中小企業の対日ビジネス支援
- ⑤ 地方自治体の国際交流、外国企業誘致等への協力
- ⑥ 大学、エクステンション・センター等での講座
- ⑦ 小・中学校、高校向け「国際理解教育」の非常勤講師派遣
- ⑧ 在日留学生に対する支援・交流
- ⑨ 国際イベント等のサポート（スポーツ、博覧会等）

2. 「虹の架け橋教室」実施の動機と目的:

1) 応募の背景:

ABICのブラジル人子弟支援活動:

2005年から三井物産の「ブラジル人子弟支援プロジェクト」実施業務を受託。

ブラジル人学校とは親密な関係にあり。

「虹の架け橋」プロジェクトへの協力依頼:

ブラジル人学校やボランティア・グループから協力依頼。

- リーマンショック = 不登校・不就学の子ども増加
- 助けるための支援をしたい
- 自分ではプロジェクト参加・運営能力・資本もない
- ABICも本プロジェクトに参加を検討中

茨城県ブラジル人学校2校との連携:

- 東京より近い茨城県のブラジル人学校、Escola Opcao (常総市) 及び Instituto Educare 校 (下妻市) と連携

寄贈したPCで学ぶ(ブラジル人学校)



3. 茨城県のブラジル人の登録者数の状況

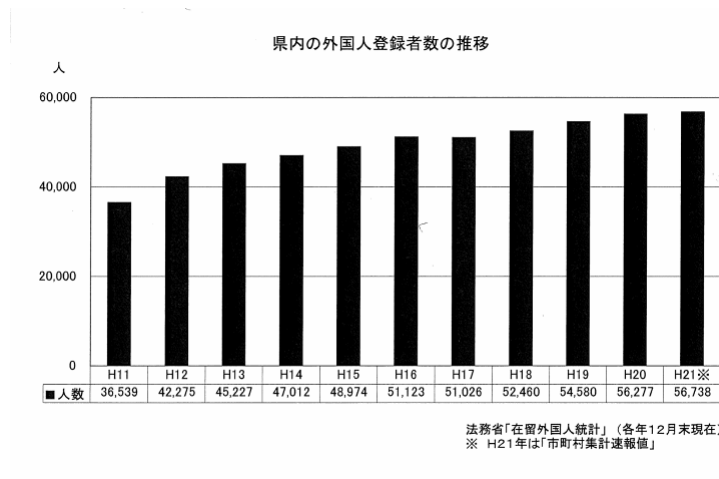
(茨城県ブラジル人等生活実態調査報告書H22年2月)

- | | 県内ブラジル人 | 県内全外国人 |
|---------------|---------|---------|
| • 1990年 | 1,610人 | 12,300人 |
| • 2007年 (約7倍) | 11,407 | 56,300 |
| • 2009年 | 9,873 | 56,362 |
- 以後同水準を維持
 - 3.11後には地震・放射能に対する恐怖心から1割以上が減少と推定
 - 殆どが県東南部の常総市、土浦市、神栖市、筑西市、下妻市周辺に居住
 - 義務教育年齢児童数は、約1,000人前後(10%)と推定。
 - 1/3公立学校、1/3がブラジル人学校(常総市3校、つくば市1校)に通学、1/3が不就学・不登校と予測

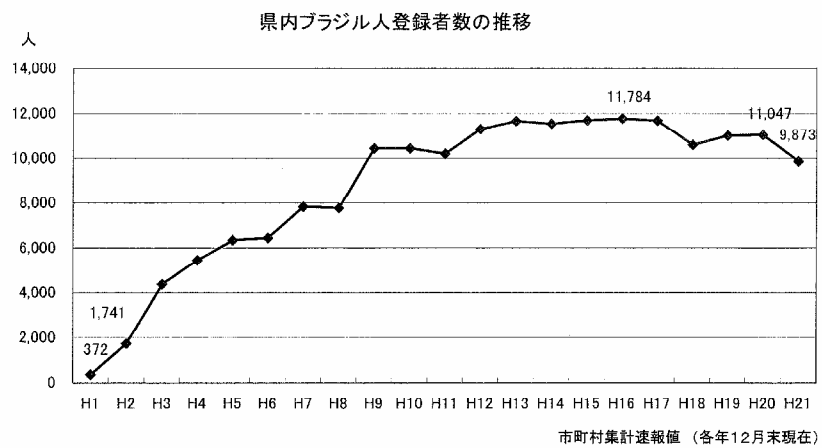
茨城県の地図



茨城県内外国人登録者数の推移 (ブラジル人等生活実態調査報告書より引用)



茨城県ブラジル人登録者数の推移 (ブラジル人等生活実態調査報告書より引用)



4. 「虹の架け橋教室」の内容:

- 2009年12月2ヶ所に開設
- 「常総教室」(常総市 Escola Opcao校内)
所在地:常総市豊岡乙3562 - 1
- 「下妻教室」(下妻市Istituto Educare校内、
その後つくば市に移転)
所在地:つくば市大貫104

1) 「常総教室」:

- 入学生徒数:
 - 2009年度28名、公立学校へ転入2名
 - 2010年度47名 公立学校へ転入4名
 - 2011年度48名 公立学校へ転入5名
- 教員:日本語教員3名、教科指導教員2名、
バイリンガル教員4名、
- 授業時間:月曜日～金曜日
3時間(13:40～16:40)
- 教科:日本語、算数、音楽、体操
- コーディネーター:5名

虹の教室で勉強する子どもたち 常総教室(茨城県)



2)「下妻教室」:

- ・入学生徒数:2009年度11名、公立学校へ転入0名
2010年度25名 公立学校へ転入2名
2011年度23名 公立学校へ転入5名(予定)
- ・ 教員:日本語教員4名、教科指導教員2名、
バイリンガル教員3名、
- ・ 授業時間:月曜日～金曜日 3時間
Aクラス(10:00～12:00)
Bクラス(13:00～16:00)
- ・ 教科:日本語、算数、図工、音楽、体操
- ・ コーディネーター:5名

虹の教室で勉強する子どもたち 下妻教室(茨城県)



5. 実施上の問題点と対策:

1) 運営上の問題:

不就学・不登校の子どもの把握:

- ブラジル人コミュニティへのアクセスの難しさ
- ブラジル人学校経由と集合場所での呼びかけとチラシの配布

教室参加への保護者の説得:

- 不就学の理由: 経済的理由と保護者の教育に対する意識と関心の薄さ - 保護者の理解と説得が困難
- ブラジル人学校のコ - ディネ - タを通じて対応

在籍期間の制約(6ヶ月)と長期化:

- 学校生活への順応と学習意欲の取り戻しに時間が掛かること、
- 日本語能力のレベルの低さと個人差のバラツキ
- ある程度の長期在籍も止むを得ない

2. 受け入れ側(公立学校側)の体制:

受け入れのための事前の打合わせの重要性:
受入校の外国人教育体制や国際学級の運営
条件が厳しい

- 木目の細かい指導が十分でない面は否めず順応
出来ずに不登校になるケース
- 虹教室の対応:
- 受入校とのフォロー・アップや
 - 教員・コーディネーターが地域社会(保護者会)に対応
 - 保護者と児童生徒への指導や就学支援、
 - 虹教室での補習

6. 「虹の架け橋事業」の評価:

- 1) 定住化する外国人の子どもの不就学・不登校の問題がクローズ・アップ:
 - 就学の途が開かれたこと。
- 2) 外国人の子どもの日本語・文化の教育指導の重要性の認識
- 3) 外国人年少者向けの日本語教育体制作りの必要性の認識
- 4) 本事業を通じて、年少者向けの日本語教師の指導と育成が行われたこと。
- 5) 地域社会との交流や協働の必要性の認識の深化

7. 地域社会との多文化共生への途:

- 1) 「虹の教室」から見えてきたこと
 - 定住化の定着による地域社会のリスクの認識:
 - 学齢期にある子どもたち(約2.5万人)が数年後に地域社会へ参入
 - 十分な教育と社会適応性を持たない人材の参入は地域社会の将来の負担(リスク)
 - 心身ともに健全な青少年の育成の必要性:
 - 「虹の教室」に対応する日本語教育充実と社会適応のための教育機会の拡充
 - 地方行政・地域社会・地域ブラジル人社会と一体となった取組の必要性:
 - 多文化共有・共生の一環:協働した取組の必要性

2) 茨城県での具体的取組の例

日本語・文化教育の充実：

- 文化庁の日本語教育事業による「日本語教室(常総市)」の開設
- 筑波大学と共につくば市のブラジル人学校で「日本文化教育」の実施

社会適応と進学指導・ 職業教育(職育)：

- 筑波大学の「職育プロジェクト」の立ちあげ(2010年)
- 県庁、常総・つくば市役所、商工会、茨城県就労・就学センター、NPO・ボランティア団体などと共にプロジェクトの実施

筑波大での職育プログラム



ブラジル人学校の学童健康診断:

2009年度・2011年度実施:

- 2009年度:防衛医大・慶応大医学部の協力で実施
- 2010年度:文科省研究調査プロジェクトとして慶
応大・防衛医大県庁・市役所、ボランティアの支援
で実施
- 2011年度:県庁・市役所の予算で実施予定
- 県庁・市役所・地域医師会などの協力で定着を図る

母語教育対策

- ブラジル人学校とも話し合い中
公立学校の希望者には放課後授業などをしてポルトガル
語の教育を検討中

以上

感染症予防講座



目の検査(常総)

